

都名所圖會

平安城
一再刺

ル 4
4598
1





とるのしるすか(小)る
賦(起)系(カ)よ(水)る
ろ(志)く(地)る(心)と
遠(く)く(後)に(其)る
ふ(民)を(た)も(こ)も(木)る

中(守)石(上)物(即)事(地)
ふ(何)く(こ)く(今)衆
ふ(た)お(こ)る(心)る
強(じ)く(家)に(強)取(の)す
ふ(ま)り(れ)何(く)物

のしんちのしんち
此國のしんちのしんち
乃業のしんちのしんち
直のしんちのしんち
流父のしんちのしんち

のしんちのしんち
のしんちのしんち
のしんちのしんち

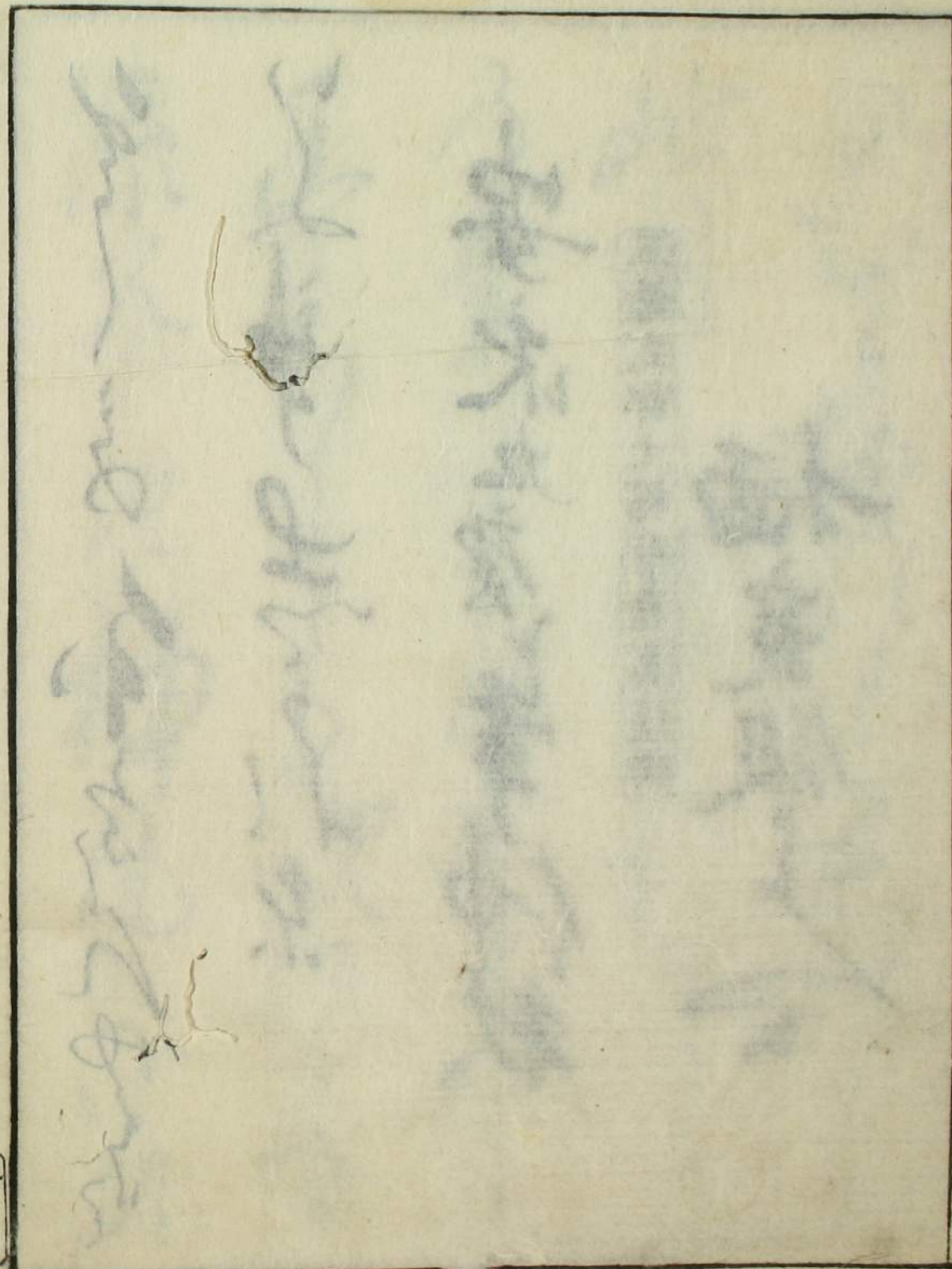
安永九年仲秋

五條式部大輔菅原為俊卿

栖霞殿

凡例

- 一 此編の巻首に平安城とあり其四方致帝鎮護の
- 四神小宮とあり免神社の芳境佛閣佳邑山川の英観等
- 今時の風景承りてのまに模写し舊本花洛細見圖を増
- 益して時々其遺漏を巡歴し搦社州府たりとも一字を減
- 勿き其坐して古蹟の勝地と見らるる致肝要とん
- 一 文讀の宮古兼時記山城名所紀行と稱し且舊記小委を
- 其大意叙あり又脱漏あり微細に搜て求てまね致撰書
- とる事致專とん
- 一 圖中に境地廣大なる所は悉く細画之狹少なる社祠小堂を
- 又亦其故跡毎に人物あり形容を以て微少なる人物は其
- 地廣大とるべし形容微少ありとるは境地狹少なり碎を
- 加茂社と野宮との境地致知るとるれば便と



一 圖中の向より人物は六画あり四時の位記と賞して控束の地と
 知せんため活東の花見宇治堂狩等と
 一 圖中此名所又連綿の地あり圍乃上に糸系と云ふありと
 繋く八幡神宮寺より宿院石法ありといふ宇治乃橋寺
 惠心院興聖寺かとの連綿の地と
 一 比叡山の圖あり東塔坂本より近江へ去りし西塔より
 連綿の地ありて除くは能くは山崎若親寺も橋別乃界
 かきどもは終たればまき図と

都名所圖會卷之一目錄

平安城首

内裏圖	上御靈	中川	相國寺
京極八幡	幸神社	糸井	妙覺寺
妙蓮寺	妙顯寺	本法寺	千宗佐家
大應寺	報恩寺	堀川	一条庆橋
小野小町草紙洗水	安倍清明社	水火天神	興聖寺
瑞光院	本隆寺	櫻葉宮	石像寺
欽喜寺	石神社	聚樂亭旧地	般舟院
西陣織物袴	津福寺	大超寺	阿弥陀寺
十念寺	本満寺	廬山寺	津華院
下御靈	革堂	清荒神	高田本誓寺
妙満寺	本徳寺	頂妙寺	源三位頼政旧跡

信長塔
 定家塔
 法然水
 家隆の基
 式子内親王
 定家の像
 時雨の亭



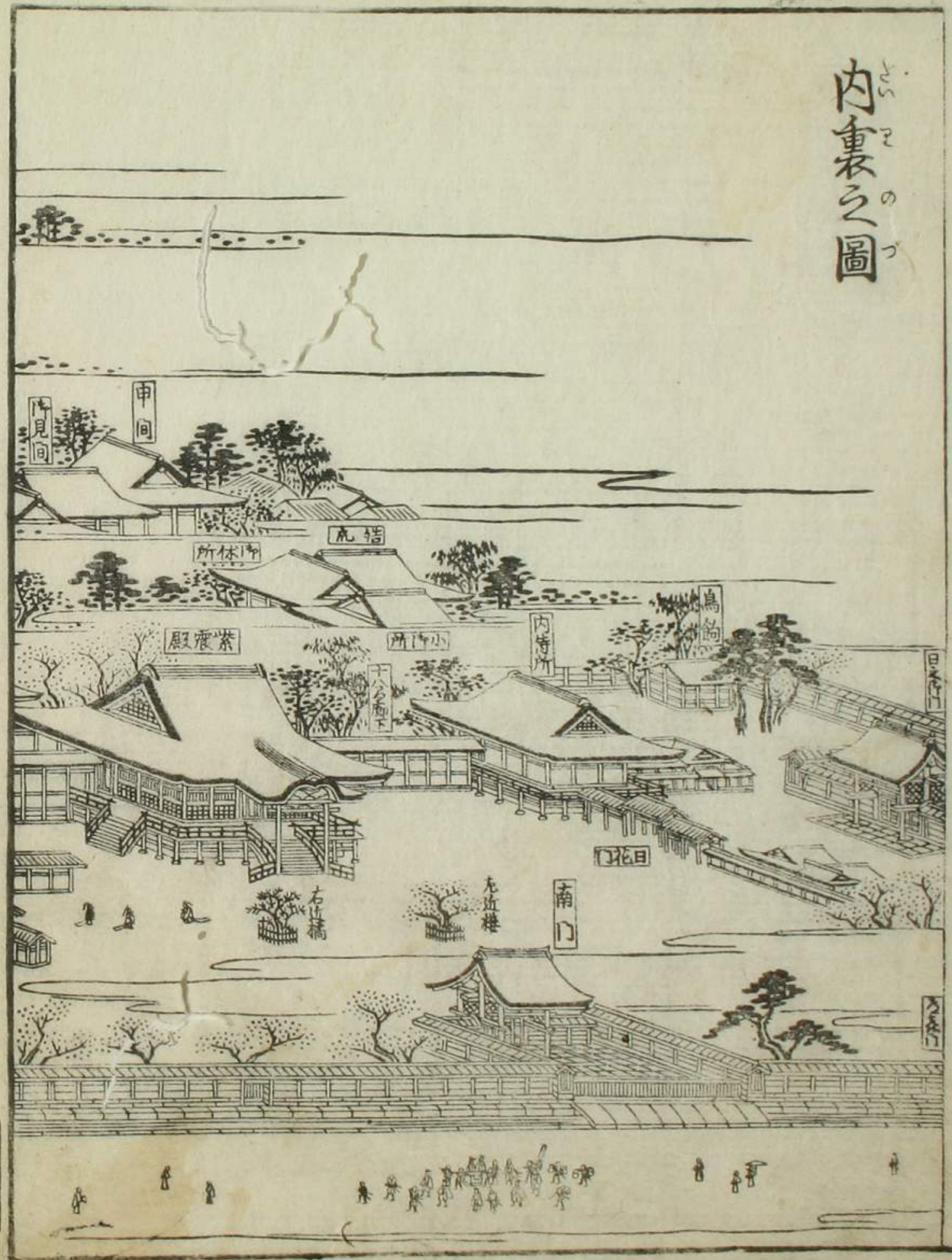
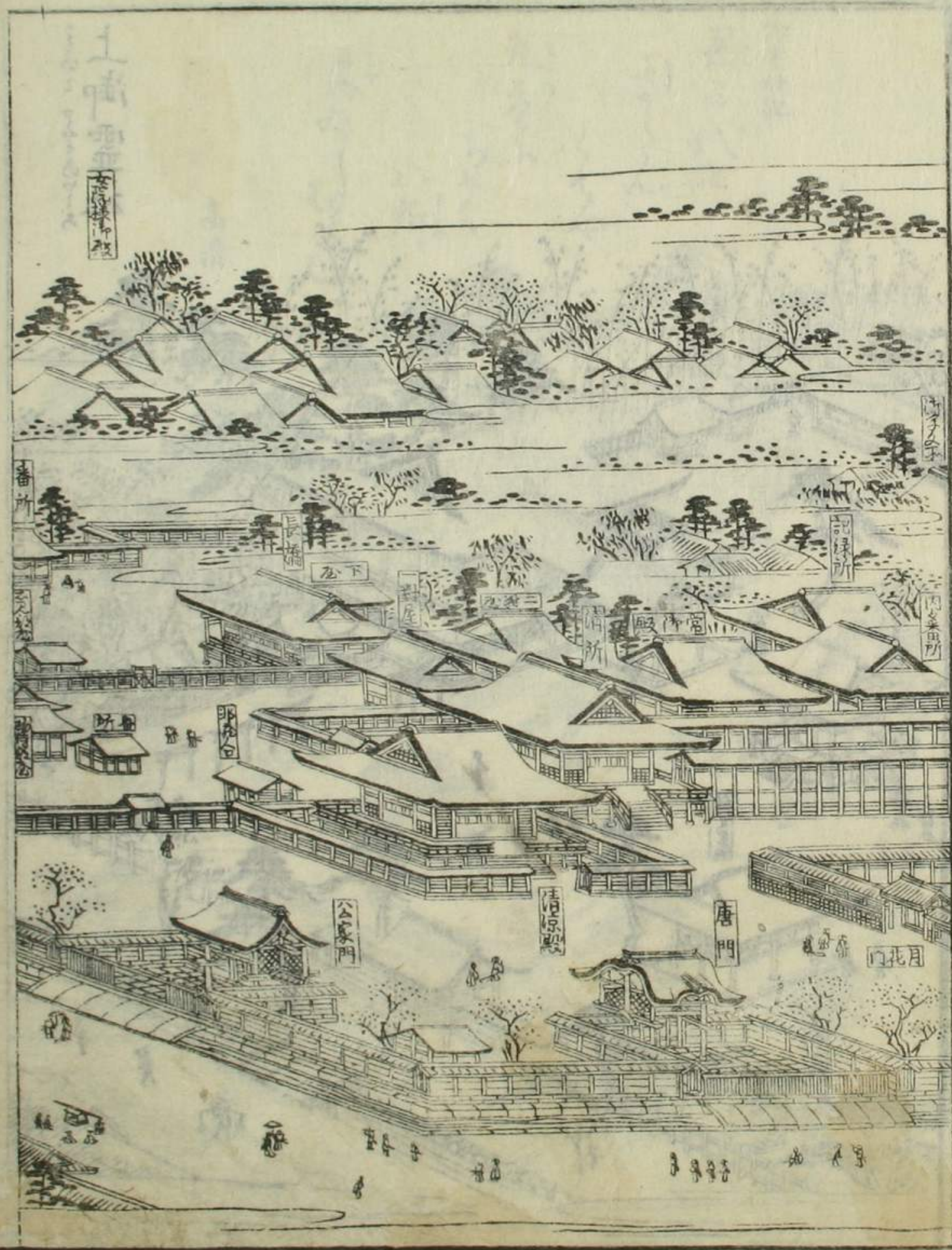
畫工傳精畫編地
 騰心翁不計勞跬
 步帝畿在日中

和克明



高松神明社	西行水	御所八幡	天性寺
久田地藏	生洲	三条橋	檀王
瑞泉寺	先斗町	六角堂	錦天神
園福寺	蛸薬師	虎茶師	長金寺
腹帯地藏	泉式部塔	誓願寺	柳の水
空也堂	神泉苑	不来薬師	

千鳥池 佐寛社



内裏之圖



上御靈社と平安城鞍馬口通南ありなる神早良親王伊豫親王藤原真人文武

等の八所所靈あり本誓院の所宇天慶二年鎮を奉る中津靈社極勢藤原廣嗣吉備大兄大雷社

り故出雲治津靈中津靈社極勢藤原廣嗣吉備大兄大雷社の南あり

○早良親王光仁帝第二の皇子なり延暦四年九月朝廷依傾身らんと

議をめぐりし其間ありてん淡海園中津靈社極勢藤原廣嗣吉備大兄大雷社に遷し同園高瀬に至り氣絶

る覺しぬ其世出云依なり中津靈社極勢藤原廣嗣吉備大兄大雷社同十九年七月小崇道天皇の追號依宣下

のなり紀伊郡藤原森神社○伊豫親王を極武天皇の所子なり平城帝の所附

逆をあらわし川原寺に於て飲食と通せ給ひたり中津靈社極勢藤原廣嗣吉備大兄大雷社○藤原真人宗道天皇の

后皇子と號を依豫親王の所母なり中津靈社極勢藤原廣嗣吉備大兄大雷社○文屋宮田在承和十年十二月小謀叛企ふ

て伊豆國小配院一率あり中津靈社極勢藤原廣嗣吉備大兄大雷社○攝津勢右中辨從四位下入居の子之淡海帝の所附の

往書りて奉朝三季の其二なり仁明帝所宇承和元年七月小謀叛の事あり

之なり伊豆國小配院中津靈社極勢藤原廣嗣吉備大兄大雷社に九月小死あり○攝津勢右中辨從四位下入居の子之淡海帝の所附の

大宰府に押のて叛逆あり中津靈社極勢藤原廣嗣吉備大兄大雷社大跡真人宣方依勢馳向ひて殺り廣嗣敗北

て自刀を以て首級落し其頸勿天昇り空中ありて赤鏡と照るなり人共とく

く即死と豊後國鏡宮肥前國板橋明神等け靈依はり中津靈社極勢藤原廣嗣吉備大兄大雷社○土吉備又

臣右大臣正二位之奉朝と皇雙の才人正天皇に遺唐使之唐士ありて野馬皇

の文依讀ん中津靈社極勢藤原廣嗣吉備大兄大雷社とて小文議曉し中津靈社極勢藤原廣嗣吉備大兄大雷社て時小奉朝初瀬の初世音依心中念す

其時蜘蛛とてりて糸依引て教をを容易ありとて平五年小歸朝光

仁帝寶龜六年薨トあり年八十二歳○大雷神北野天満天神あり

觀音堂に本尊の聖徳太子の化ありて聖觀世音之是刻出たまふ本尊あり

中川と上津靈社中津靈社極勢藤原廣嗣吉備大兄大雷社の流あり鴨川と東川と西川と其の中ありゆへ

以一名系極川と號今れ系極通寺院の筋あり中川あり藤原州あり中川の系極

川あり日天降堂殿と法成寺の間に流ありとて又原氏春に潛りて中川に

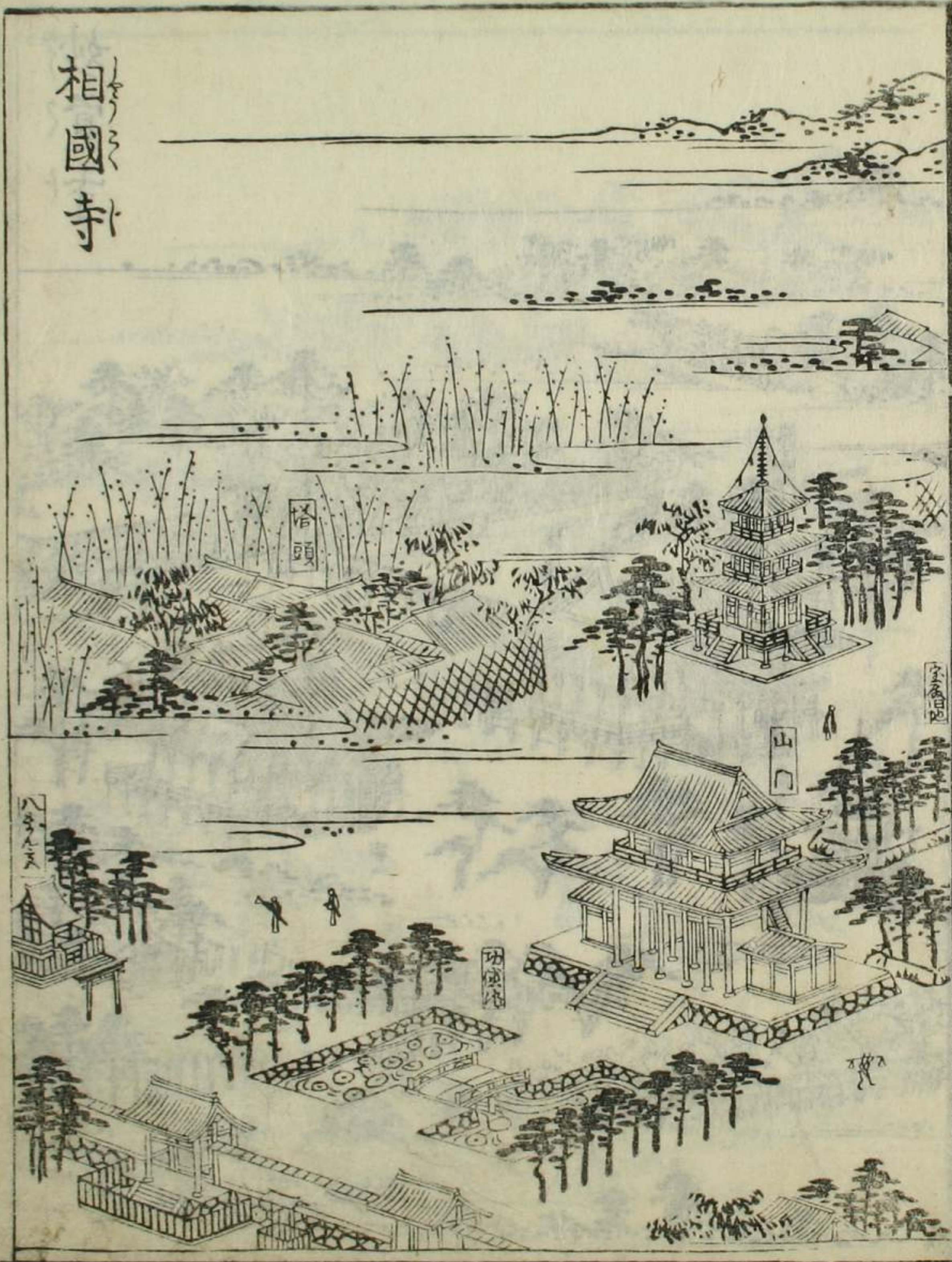
みゆき空塚と基とありとあり

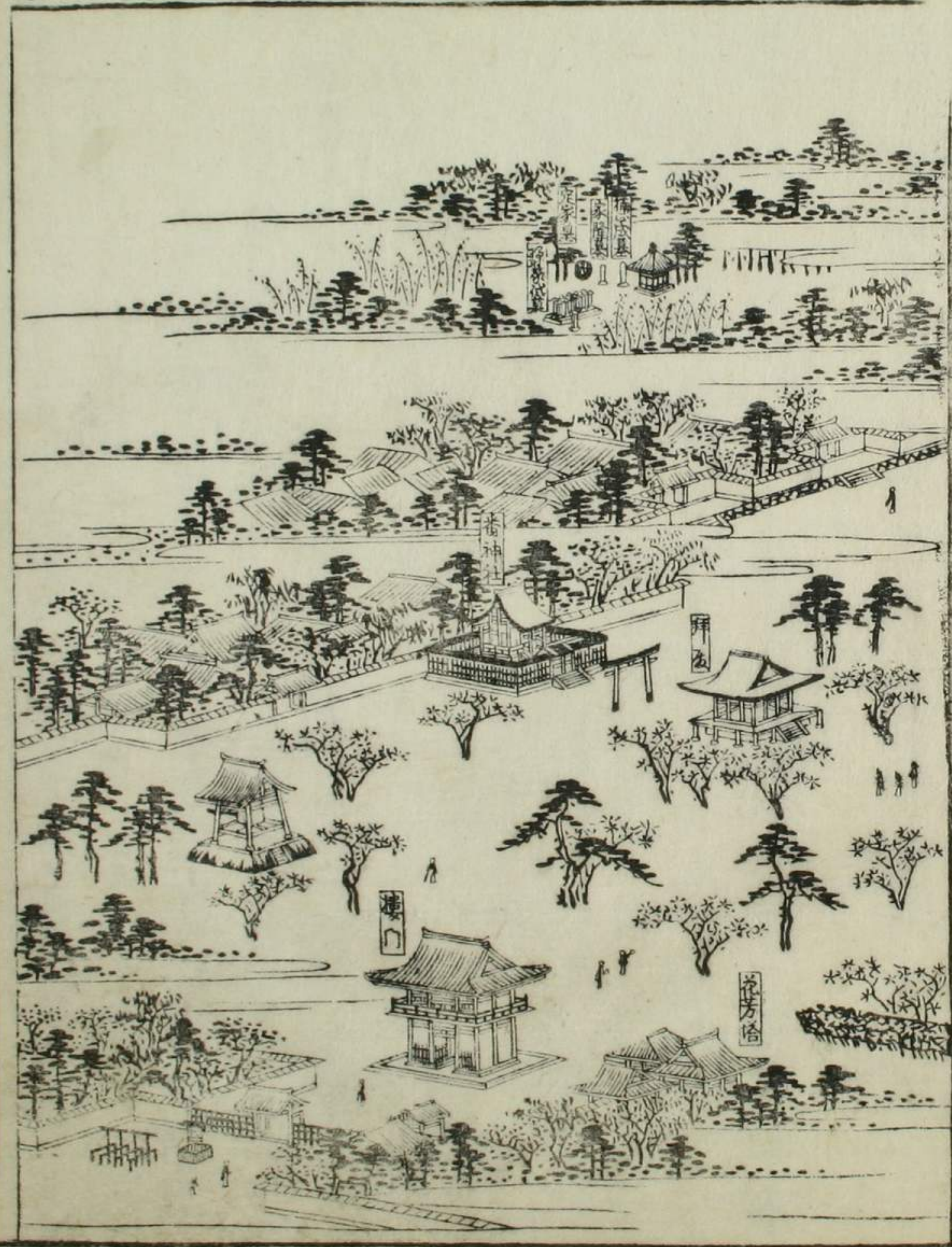
けは中津靈社極勢藤原廣嗣吉備大兄大雷社とて水とせ入る本陰とて中川に

光俊

穿真法師

相國寺





妙覚寺



萬年山相國承天禪寺今出川の北あり五丁身二丁にて開基を慈國師二世之
妙龍後小松院に清宗明德三年足利三代の將軍義満公に建より佛殿を釋迦
佛と安んず一迦葉阿難を左右に連んぬるの像を殿壇に安んず祖師堂に慈國師
の像あり後水屋院に再建して同帝の神牌に安んず三重塔と大日如來の
本尊とされも後水屋院の再建に門が圓通閣らしに沐取功德と號し橋
坂天界橋と名をけけり庫裏の傍に毘沙門を安んず
普光院に竹林の茅門定家卿の墓あり 墓前石燈籠二基あり銘曰貞享三年
臘月右中將為經卿建之とあり
法然水の塔頭松鷗軒にあり 法然上人の位中入のゆへにあり
系極八幡宮の上清靈社あり諸社根元記曰古三條京極あり應仁の亂に地を
くんと盛衰記曰系極寺と自吉の末社ありと今真言の僧に伝守り
出雲路神を系極に西今出川の小ありなり所後田彦命にて道祖神あり今
幸神といふ旧地を系極に東之

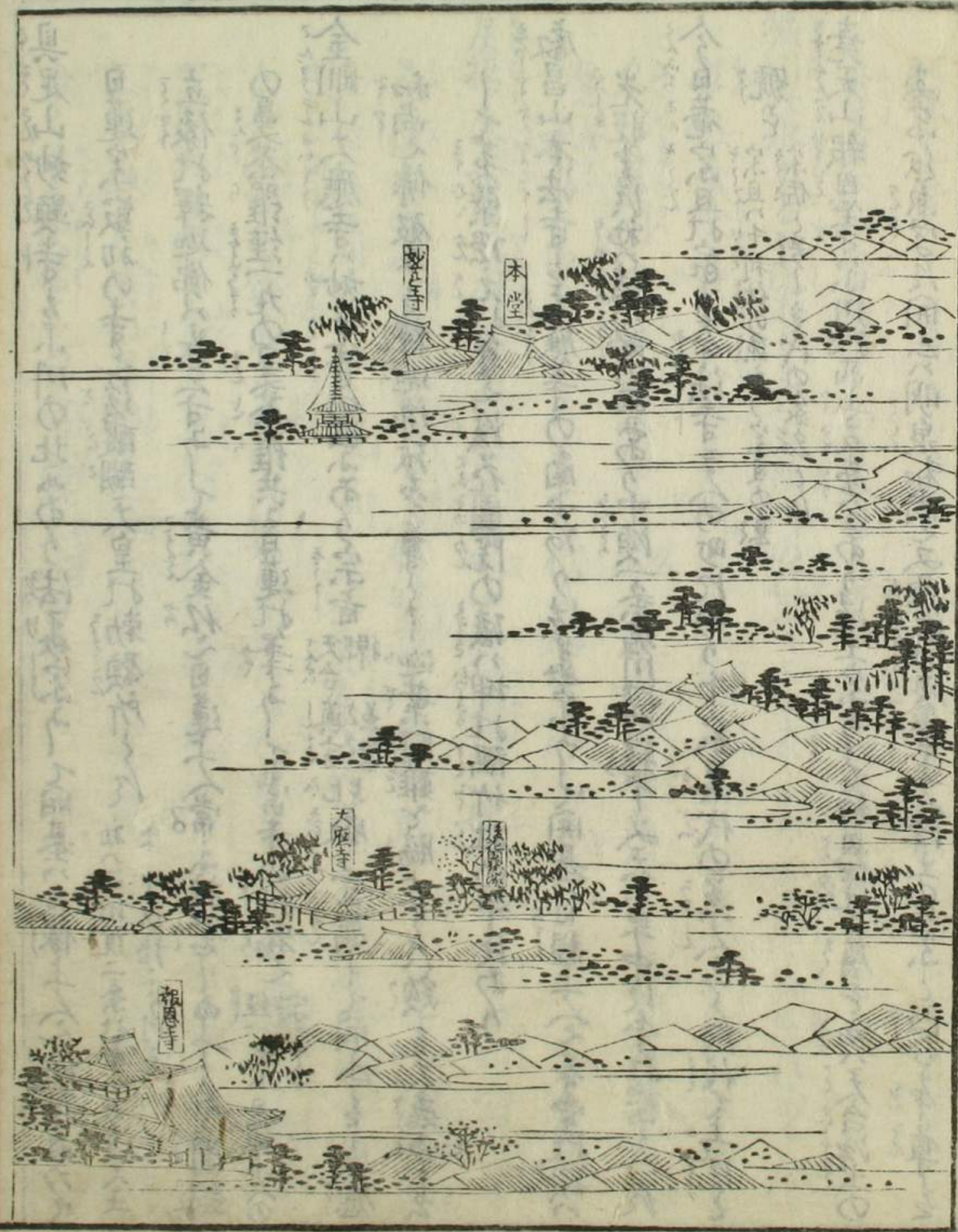
縣井戸ハ洛陽ハ名所也二條ハ小東洞院の西あり

後標 都人きてもわらぬ桂野ありはかたのゆへに乃くか 楠公平女
桂野ありこの井とふまゝにして名をなすん山侯の記 後鳥羽院
具足山妙覺寺に新町頭なる法華宗にて開基の日實上人あり樓門の金剛力士
弘法大師に化ん祖師堂に日蓮日朗日像三師の像と安んず
恰好比類取一諸堂 花芳塔に日蓮自筆の法華經と収む紫印金乃曼
荼羅を用龍甘露茶羅と共の日蓮の号ありて當寺に什寶あり 什寶のありは
又當寺の畫工狩野方法眼元信具外狩野家数代の墓あり
卯本山妙蓮寺と寺内通小川の西あり右日實上人にて開基の日像上人あり古の
西洞院五条小あり柳屋仲興といふもの日像と歸依して宅地を寄附し柳
寺と稱し其後大宮通四条に南ふりし又之を移す通大宮に遷天正廿四年
ふは地小移を當寺の什寶に祈雨の奉尊とて日蓮上人に自筆法華甘露茶
羅あり後光嚴院に清宗とて大正廿四年に本尊を移して枝川のかきり後雨
れ法を修せしむ勿盡在ありと大正廿四年に日蓮上人の遺徳の號を給ふ

楠公平女

後鳥羽院





具足山妙顯寺を小川の北にあり法政宗より用基の日像上人の洛陽よりて

日蓮宗最初の寺に後醍醐天皇の勅願所なり初に西洞院二条に南ありて正

立像に釋迦佛の長子ありて黄金仏に日蓮上人常持念しゆすを蜀錦

の曼荼羅經一九の曼荼羅共日蓮上人筆よりて當寺の什物經一九の日像上人の

金剛山大應寺の妙覺寺の西あり宗百天台眞言比叡山五属して用基を虚應

和尚の佛殿より釋迦佛を尊とて迦葉阿難を脇士とて額を大慈とて

一て芝磔隠えれ等と後花園院の陵に堀北隅竹林の中にあり

慶昌山本法寺を大應寺の南少あり法政宗よりて用基の日親上人の本堂に額に

光悦書に初後小路の西あり中頃一条堀川に西移り又天正年中に今れたるつた

今日菴宗且他家を本法寺の町にあり千家累代の系人あり位て上流と

號と宗且の千利休の孫あり宗且の墓は 宗佐く勢一時代の家名と伝

堯天山報恩寺小川に西上り立賣あり淨土宗より智因院に屬し初に天合淨土の

女宗派氣學に用基の明泉和尚と西蓮社慶譽上人淨土の二宗と改む本尊と

阿弥陀佛よりて安阿弥の位あり當寺の什物赤虎の画あり四明陶僧の筆あり

秀吉との時聚楽亭ありて夜と聲が發せ故世人鳴虎と称れ

堀川に水上と二流あり其一鴨川の枝よりて上流より人家の下流にあり

堀川系尻橋下と合れを小川とて二流の流峯より出て今宮東流と

名取若狭川より其尻橋下より合し南へ流れ末寺後經て上鳥羽より鴨川へ入

水とよりあてりれと名代ありていすある堀川のみ 曾孫母忠

尻橋と二条通堀川に上あり安陪暗明十二神將の橋下鎮を奉後約の時に喰む

是傳世の古名を以橋ありて古府の神將の事は人論して告るなり 源平盛衰記の

二位殿一条堀川尻橋の末の瓜の車とて二善清の死を耐子に傳藏父小邊人

と名能形を音城と出く入流しは橋なるに人父の喪送不遇不推と止て橋上其

置肝膽を推し念珠板橋大小の神祇と橋を遊小児力陀羅尼に徳ふりて圖羅

王界小徹し父清の急難を傳藏涙と揮て之を抱き家より解りありりな成

けく世人尻橋といふ是洛陽に名橋なり

一條戻橋

たまらぬ

とほり橋

ははく

あ

帰る

さぬ

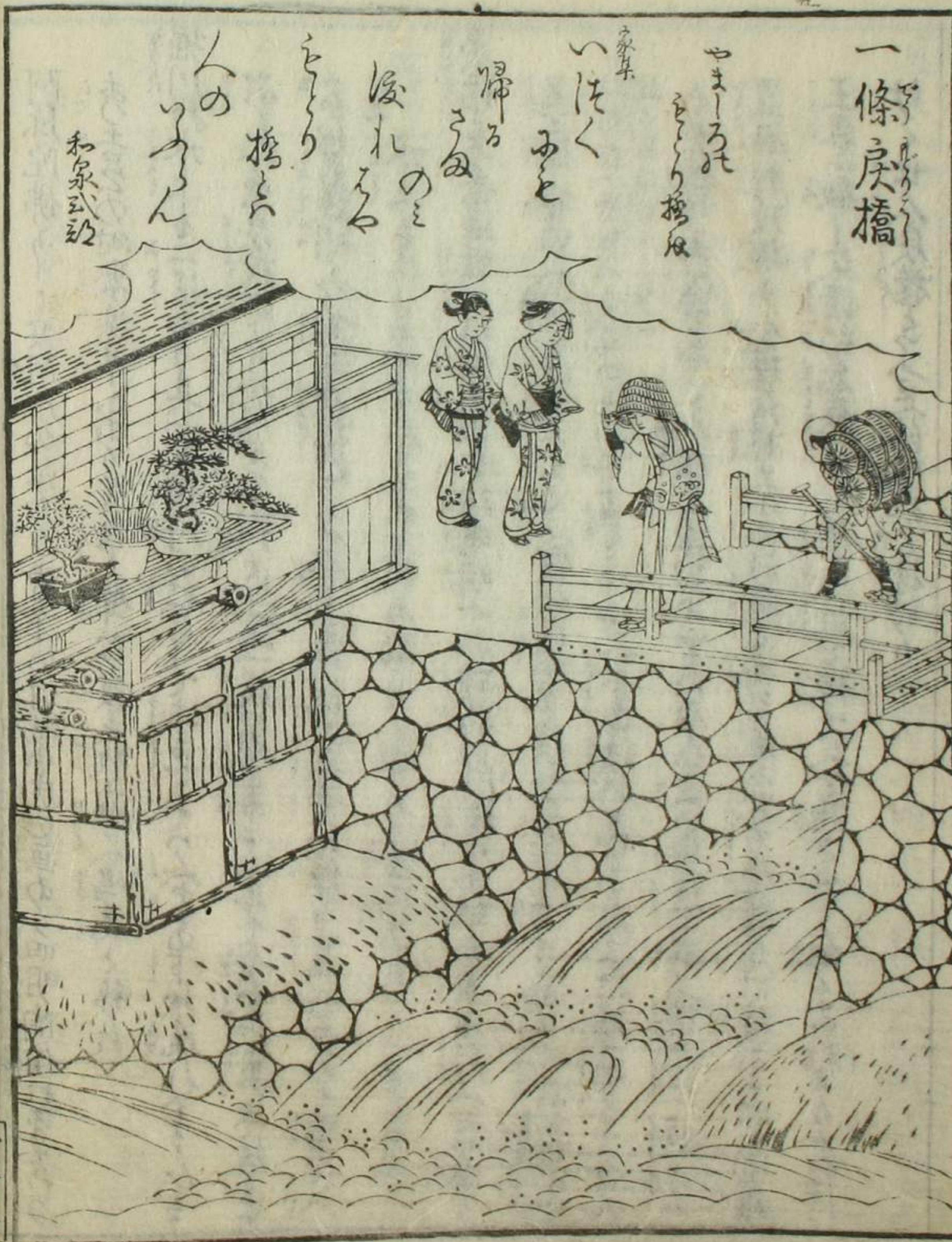
はれ

とほり

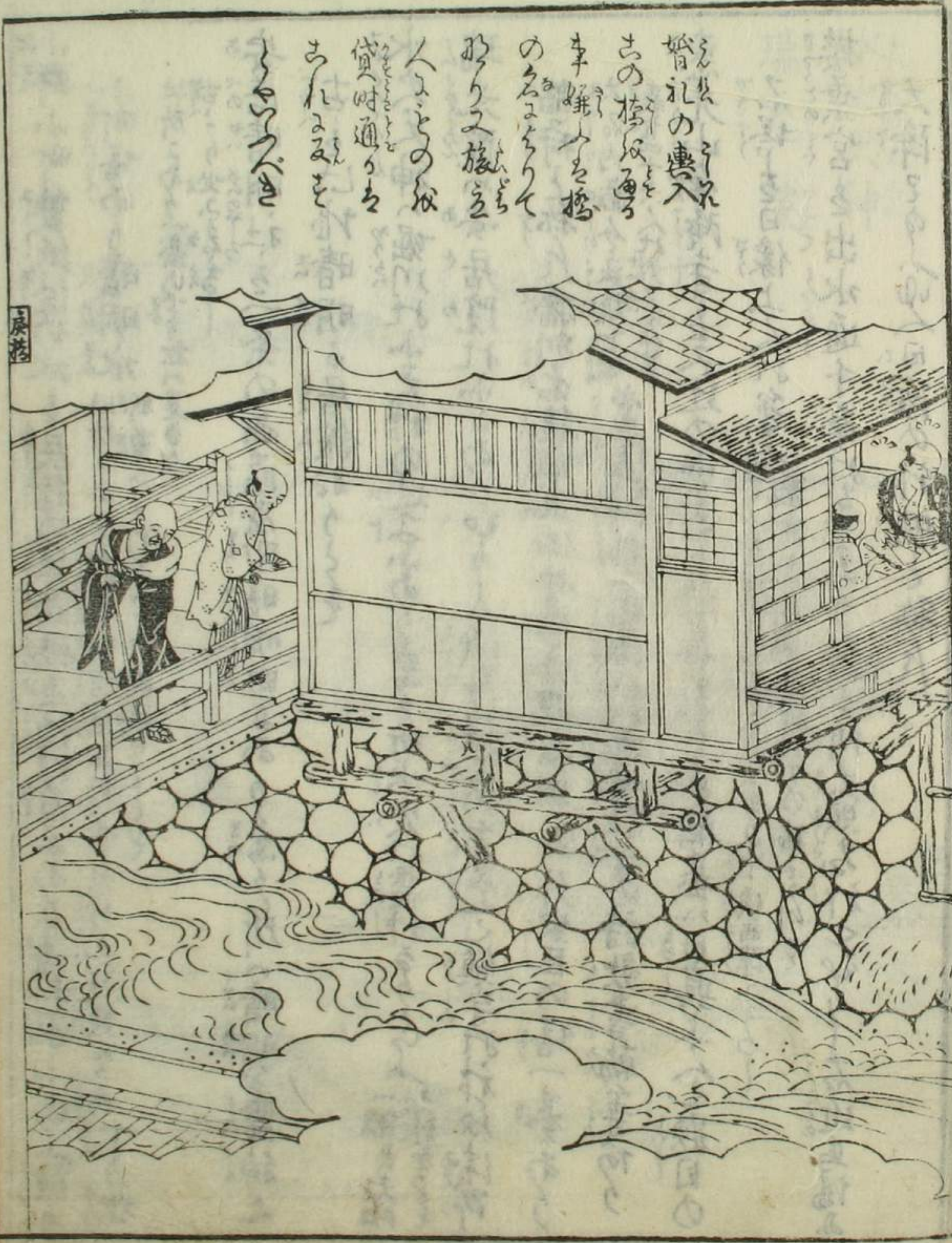
橋

人の

和泉式部



皆礼の豊入
さの橋は通る
幸無くは橋
の名はとほり
ゆり又旅
人よとの心
貸財通ら
あらぬを
とほり



和泉

石像寺



家隆山石像寺と千本通五辻の少あり降土宗ありて本尊阿彌陀佛と

菅公に所化あり地藏堂也弘法大師の化ありゆゑに像は石地藏あり

ありて靈驗いよあり石像寺 前上総女藤原朝臣家隆卿の塔あり

北向山歡喜寺の上之賣の西あり真言宗ありて本尊歡喜天と弘法

大師の化あり當寺を嵯峨帝の勅願所ありて因基弘法大師とて

石神社と歡喜寺の西ありあり所長六人ありて巖石あり土藏の中又安

並に舊と大内裏は境内ありとて

聚樂亭は旧地三条の南二条の山ありて東は空を限り西は朱雀通

坂場とて大岡秀吉公天正十二年の城郭を築た壯麗ありとて威重とて

まねとて殿閣五の七寶を鏤る本寺石坂ありて春の阿房宮前漢は未央宮

ありとて十六年四月行幸ありておありて會津藩あり

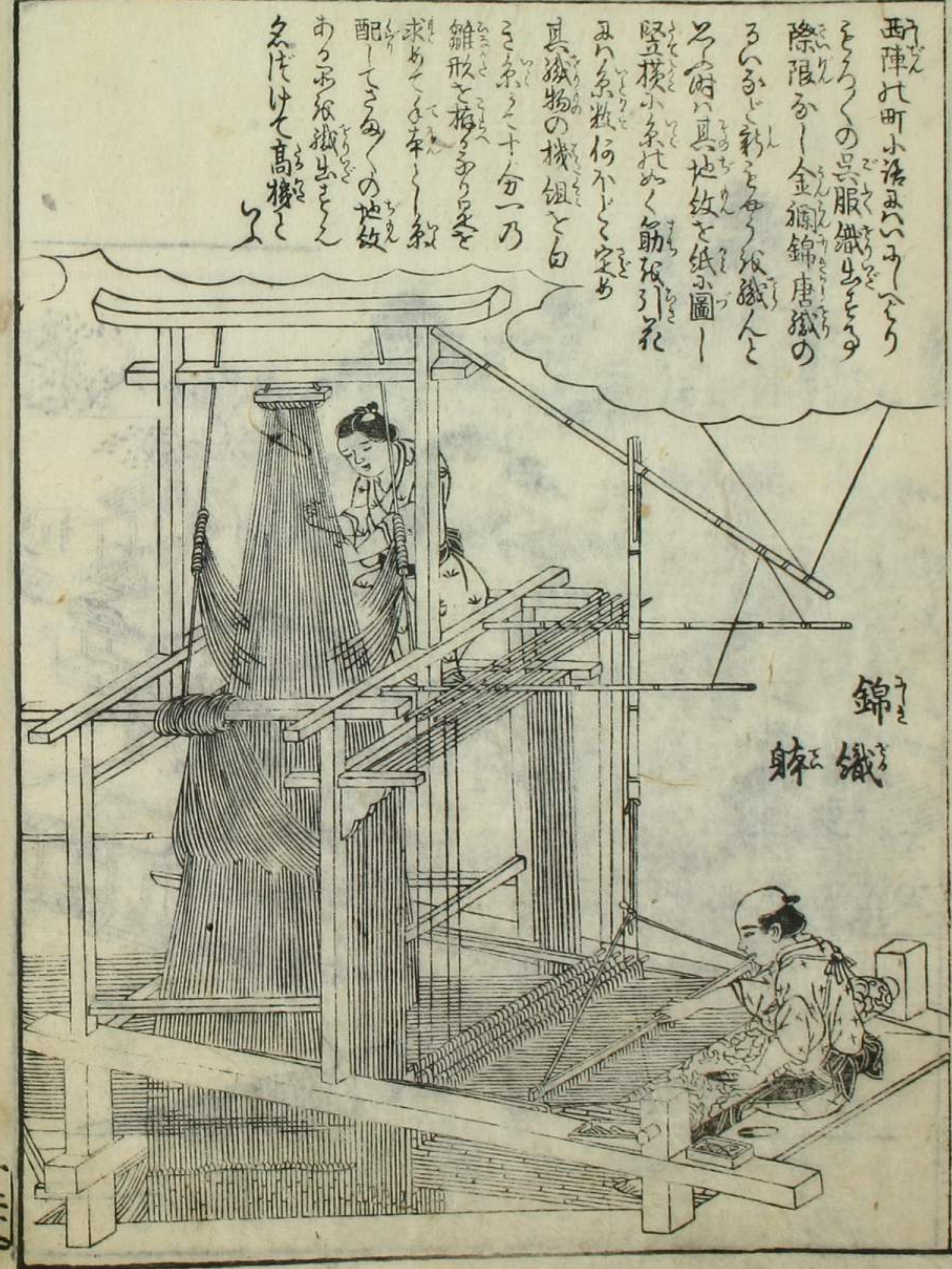
其後園白秀次公の信ありとて深四年の滅亡ありて樓閣ありとて此寺院

ありとて今聚樂の名れと遺り町は惣名ありぬ

聚樂組と號する町敷
凡百二十町あり



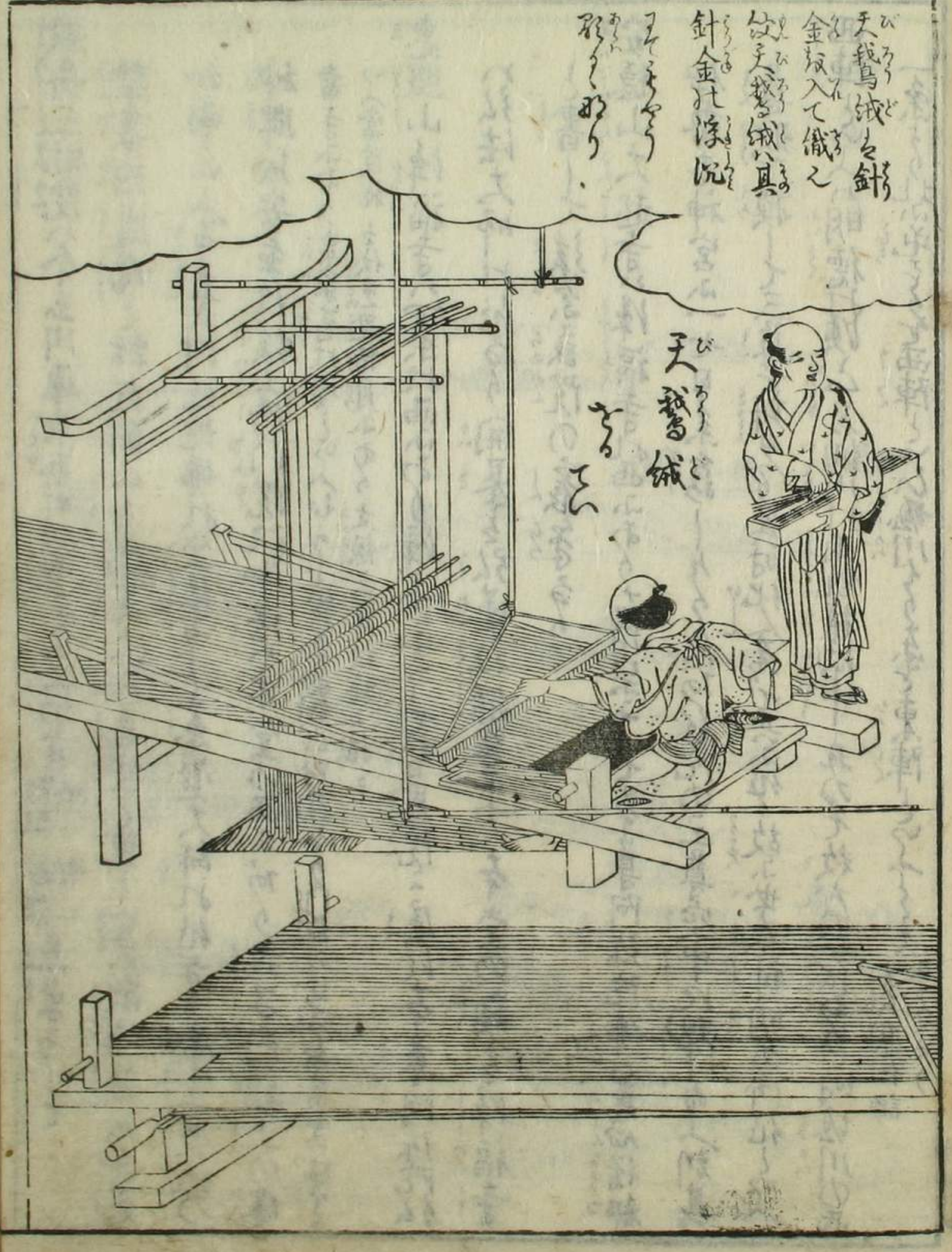
西陣は町小路の西にありて
 その町の呉服織り多し
 際限なく金襴錦唐織の
 多しと云ふは其の故に
 其の織り具は紙の圖に
 照して織るなりと云ふ
 其織物の機組と白
 糸とを十寸五分一乃
 離形と稱するあり是を
 求めて本に織るに
 配して織るの地故
 ありは織物出ると
 名はけて高機と
 云ふ



錦
 織

天我鳥織を針
 金に入れて織る
 故に天我鳥織具
 針金に深沈
 形なり

天我鳥織
 具



淨華院



廬山寺



蓮臺山阿弥陀寺へ系極通鞍馬に北南あり浄土宗ありて百万遍に属し

本尊の阿弥陀佛ハ弘法大師の他ニ開基ニ清玉上人方丈ニ織田信長公
同信忠公ハ影像ニ安仁同兩公ハ墳墓外明智老秀叛逆ハ附本住寺
ニおわく討死の長教輩の墓あり 清玉上人信長公ハ龍坂ニけ
華宮山十念寺ハ阿弥陀寺の南あり右は宗ありて本尊阿弥陀佛ハ弘法

大師の他ニ開基ハ真阿上人 永享十二年七月二日小寂以遺命よりて高羽川ニ
廣布山本満寺ハ十念寺の南あり法義宗ありて開基ハ日秀上人ハ祖師堂

日蓮上人ハ像ハ初丹波國黒田村あり所の人熱病致して死するもの多ク
おれ則ハ像の崇めりて横小入て山中ニ捨りまする星霜累々知るもの多

あつ付中ハ讀経ハ拜あり村氏ハ飯のやみらみ入く窺ふハ尊像ハ
得り則同所生福寺ニ安仁其後宇津宮心覺といふものあり後集ハ

ありて都小登り市中ニ集めぬ寺の日重上人ハおれとて高祖の像ありて速小
買りて當寺ニ安仁並り 祈願する靈驗ありてありて當寺の門徒常に集り

一説ハ三大師の像といふ新著阿彌陀寺ニあり

淨華院ハ京極通今出川の南あり浄土四本寺の具あり本堂ハ弘法大師

ハ像ニ安仁阿弥陀堂の本尊ハ惠念の他ニ 當院ハ初ハ天台宗ありて弘法大師の
馬丸の西あり内裏ニ近きよりハ 開基ハ初ハ地土門通今の上長
内道場と称せり故ニハ號也 中興ハ法然上人今ハ第五世向阿上人ハ俗姓ハ

源成ありて武田安藝守時綱の子あり舊ハ園城寺の住侶浄善房證賢と
號し弘安十年發心して離るあり洛陽花園院ニ移れ其後當院ニ開基ハ

身代不動尊 當院ニ安仁のつりハ三井寺の智法法師重病致しけり安仁陪
暗明清淨ハ祈りて日とて命終の期至り徒衆の中ハ身代ハ二五
なる僧ありて向ふ村小末子二十六人の内聖空といふ僧ありて是師の身代ハありて

命終斷るハといふ其ハ聖空ハ常ニ持念ハるハ不動尊中ニ示現して宣くハ
此ハ心を感じてハ又聖空の身代ハといふハ告めハ
此師の法智老法師ハ病難ハせんといふ今ハ強ハる也

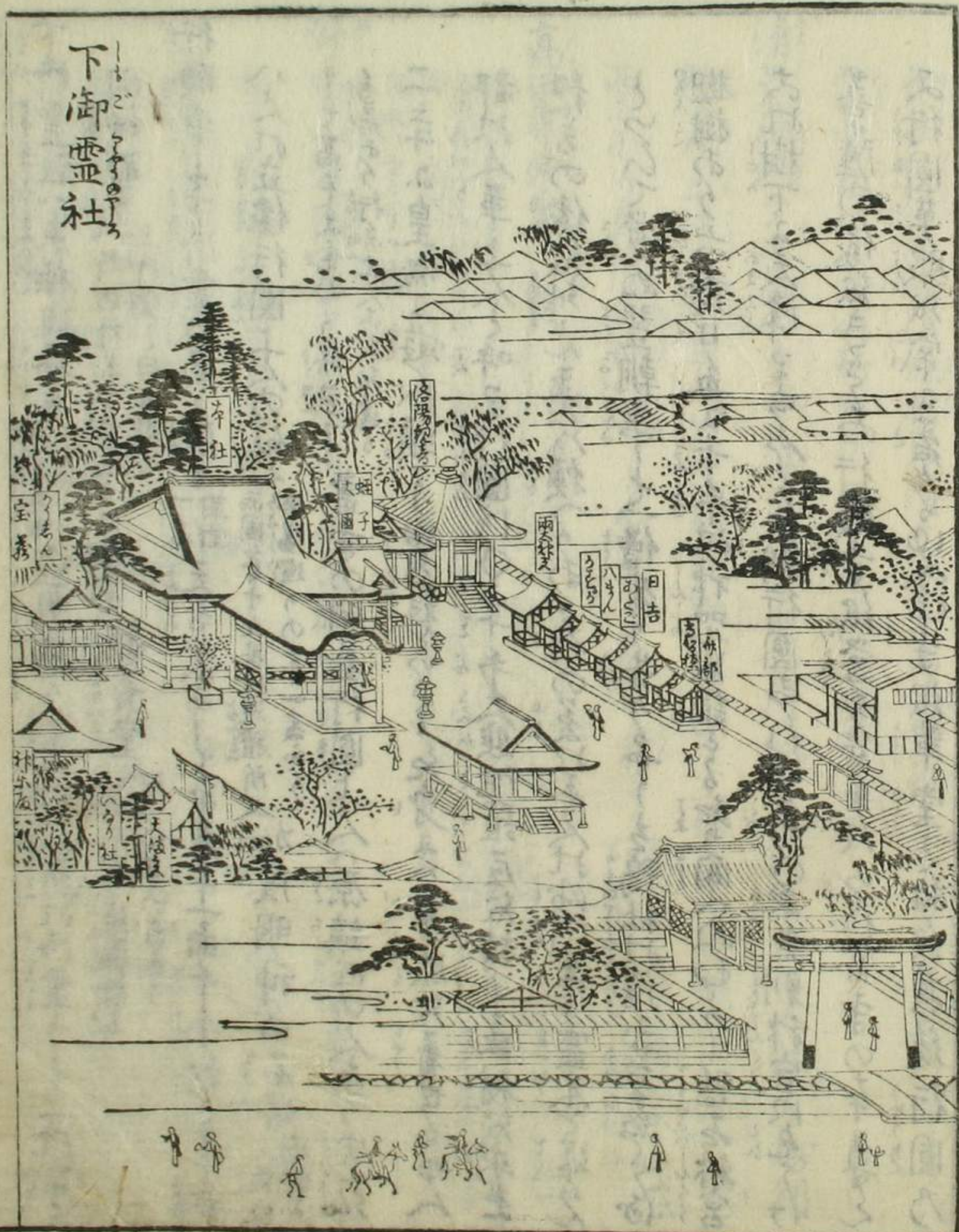
廬山天台講寺ハ淨善院ハ南あり宗旨 兼學あり開基ハ善學人師あり
法指浄土

て與願金剛院と號し中興ハ住人ハ一日化人ありてハ唐ハ惠遠法師ありて
廬山の二字ハ之ハ住人尚與ハ故ハ廬山寺と改む本尊ハ二天師自他ハ像ハ南ハ

壇上ハ宗師佛と安仁 聖徳太子の他ニ無ク 小住壇上ハ聖觀音ハ安仁 當寺
小住の宗師と稱れ 船來地記あり

れ什物ハ法然上人自筆ハ選擇集あり又親鸞聖人自筆ハ四文あり 檀園ハ一ハ四ハ自他ハ之

下御霊社



革堂



下清靈社（下清靈の社）系極通春日（春日の社）鎮九左町（九左町の社）の南あり多る社（多るの社）八所北清靈（北清靈の社）うて上清靈（上清靈の社）

同神なり（同神なり）八所の社名（八所の社名）上清靈（上清靈の社）同日あり（同日あり）觀音堂（觀音堂の社）社内あり洛陽（洛陽の社）觀音堂（觀音堂の社）巡りの者あり

行願寺（行願寺の社）下清靈の南隣（下清靈の南隣）一名（一名）天台宗（天台宗の社）うて本尊十一面千手觀音（十一面千手觀音の本尊）長

八人（八人）立像行圓上人の位（立像行圓上人の位）西國（西國の社）身十九番（身十九番の社）巡禮所（巡禮所の社）又（又）加茂明神（加茂明神の社）の石塔（石塔の社）五輪の

して高き（して高き）上余（上余の社）あり塔（塔の社）當寺（當寺の社）の圓基行圓上人（圓基行圓上人の社）原鎮西の人（原鎮西の人の社）なり寛弘

二年（二年）小皇城（小皇城の社）遊（遊の社）び頭（び頭の社）寶冠（寶冠の社）うて（うて）身（身の社）再（再の社）華服（華服の社）着（着の社）せり（せり）人

都人（都人の社）華上人（華上人の社）呼（呼の社）び行圓（行圓の社）は（は）半手（半手の社）大悲陀羅尼（大悲陀羅尼の社）持（持の社）し良材（良材の社）故求（故求の社）光

紀言（紀言の社）の像（像の社）故城（故城の社）人（人の社）事（事の社）故頼（故頼の社）へり（へり）ある夜（ある夜の社）の爰（の爰の社）に人（に人の社）北沙門（北沙門の社）來（來の社）り靈本（靈本の社）と送（と送の社）え

とつて（とつて）覺（覺の社）ぬ翌朝（翌朝の社）果（果の社）して僧（僧の社）來（來の社）り告（告の社）る（る）中（中の社）う（う）鴨社（鴨社の社）は（は）儀（儀の社）小（小の社）苔（苔の社）蒸（蒸の社）と（と）は

柳樹（柳樹の社）あり六齊（六齊の社）日（日の社）毎（毎の社）二千（二千の社）千（千の社）れ神咒（神咒の社）故誦（故誦の社）る（る）聲（聲の社）聞（聞の社）へぬ（へぬ）む（む）鴨（鴨の社）右（右の社）社（社の社）宮

大（大の社）れ樹下（樹下の社）は天降（天降の社）りあり（あり）ゆ（ゆの社）を則行圓（則行圓の社）より（より）故（故の社）る（る）の求（の求の社）光則神官（光則神官の社）に（に）ん（ん）け

菩薩（菩薩の社）の像（像の社）故（故の社）き（き）う（う）行願寺（行願寺の社）故（故の社）當寺（當寺の社）安（安の社）重（重の社）ん（ん）う（う）れ當寺（當寺の社）の本尊（本尊の社）と

又行圓（又行圓の社）華服（華服の社）故（故の社）常（常の社）う（う）着（着の社）る（る）ゆ（ゆの社）け（けの社）寺（寺の社）故（故の社）華堂（華堂の社）と（と）稱（稱の社）其（其の社）後（後の社）行圓（行圓の社）乃

身（身の社）子（子の社）仁（仁の社）弘（弘の社）法師（法師の社）は（は）餘材（餘材の社）故（故の社）得（得の社）て（て）又（又）八尺（八尺の社）の像（像の社）故（故の社）依（依の社）り（り）西（西の社）山（山の社）良峯（良峯の社）寺（寺の社）に（に）本尊（本尊の社）と

當寺（當寺の社）初（初の社）の一條（一條の社）通（通の社）新町（新町の社）の西（西の社）あり（あり）故（故の社）小一條（小一條の社）華堂（華堂の社）と（と）よ

清荒神社（清荒神社の社）の系極（系極の社）の東（東の社）荒神（荒神の社）口（口の社）あり（あり）多（多の社）所（所の社）八（八の社）臂（臂の社）は（は）荒神（荒神の社）あり（あり）初（初の社）を（を）掛（掛の社）別

勝尾（勝尾の社）山（山の社）清（清の社）小鎮（小鎮の社）坐（坐の社）後（後の社）陽（陽の社）院（院の社）勅（勅の社）り（り）ゆ（ゆの社）て（て）文（文の社）祿（祿の社）年中（年中の社）五條坊（五條坊の社）門（門の社）油（油の社）小（小の社）洛（洛の社）の

西（西の社）あり（あり）其（其の社）後（後の社）北（北の社）關（關の社）の近（近の社）う（う）ん（ん）た（たの社）ち（ちの社）と（と）け（けの社）地（地の社）を（を）移（移の社）さ（さ）る

高田（高田の社）専（専の社）修（修の社）寺（寺の社）沖（沖の社）坊（坊の社）ハ（ハ）川（川の社）東（東の社）町（町の社）二（二の社）条（条の社）の（の）西（西の社）あり（あり）初（初の社）を（を）掛（掛の社）別

妙塔山（妙塔山の社）妙（妙の社）備（備の社）寺（寺の社）と（と）系極（系極の社）通（通の社）二（二の社）条（条の社）の南（南の社）あり（あり）法（法の社）華（華の社）宗（宗の社）あり（あり）用（用の社）基（基の社）の（の）日（日の社）什（什の社）上人（上人の社）

あり（あり）水（水の社）池（池の社）二年（二年の社）五月（五月の社）に（に）建（建の社）立（立の社）あり（あり）之（之の社）の地（地の社）は（は）鏡（鏡の社）小（小の社）洛（洛の社）堀（堀の社）川の西（西の社）あり（あり）今（今の社）妙（妙の社）備（備の社）寺（寺の社）

道成寺（道成寺の社）鐘（鐘の社）當寺（當寺の社）あり（あり）是（是の社）れ（れ）紀（紀の社）別（別の社）見（見の社）高（高の社）道（道の社）成（成の社）寺（寺の社）の鐘（鐘の社）あり（あり）銘（銘の社）あり（あり）其（其の社）鐘（鐘の社）は（は）鏡（鏡の社）小（小の社）洛（洛の社）堀（堀の社）川の西（西の社）あり（あり）今（今の社）妙（妙の社）備（備の社）寺（寺の社）

内（内の社）に（に）鏡（鏡の社）小（小の社）洛（洛の社）堀（堀の社）川の西（西の社）あり（あり）今（今の社）妙（妙の社）備（備の社）寺（寺の社）の鐘（鐘の社）あり（あり）其（其の社）鐘（鐘の社）は（は）鏡（鏡の社）小（小の社）洛（洛の社）堀（堀の社）川の西（西の社）あり（あり）今（今の社）妙（妙の社）備（備の社）寺（寺の社）

中川の井（中川の井の社）堂（堂の社）あり（あり）其（其の社）堂（堂の社）は（は）鏡（鏡の社）小（小の社）洛（洛の社）堀（堀の社）川の西（西の社）あり（あり）今（今の社）妙（妙の社）備（備の社）寺（寺の社）

妙満寺



本能寺の系極通押小治の南あり法美宗ありて勝劣あり古を妙満寺の

日像上人より四世日齊上人用基百隆上人初の地を角の南油小治の東に

あり今本林寺町中興権大僧都日與上人筑波集とつ和語の書故其者と

方々の前門の聚樂城よりあに後を昭物花美あり三十番社社(原

愛宕山権現の古社あり瓦葺りて織田信長公塔本堂の東あり天正十年六月二日

為自叙を委の題目曼陀羅宗祖日蓮上人の尊く器具と地地の純子小唐津の地故

聞法山頂妙寺の二條橋東の山小町あり右は宗一致派ありて用基の日祝上人

あり権大僧都法印ありて姓千葉氏下総國千葉郡の人永正十年四月

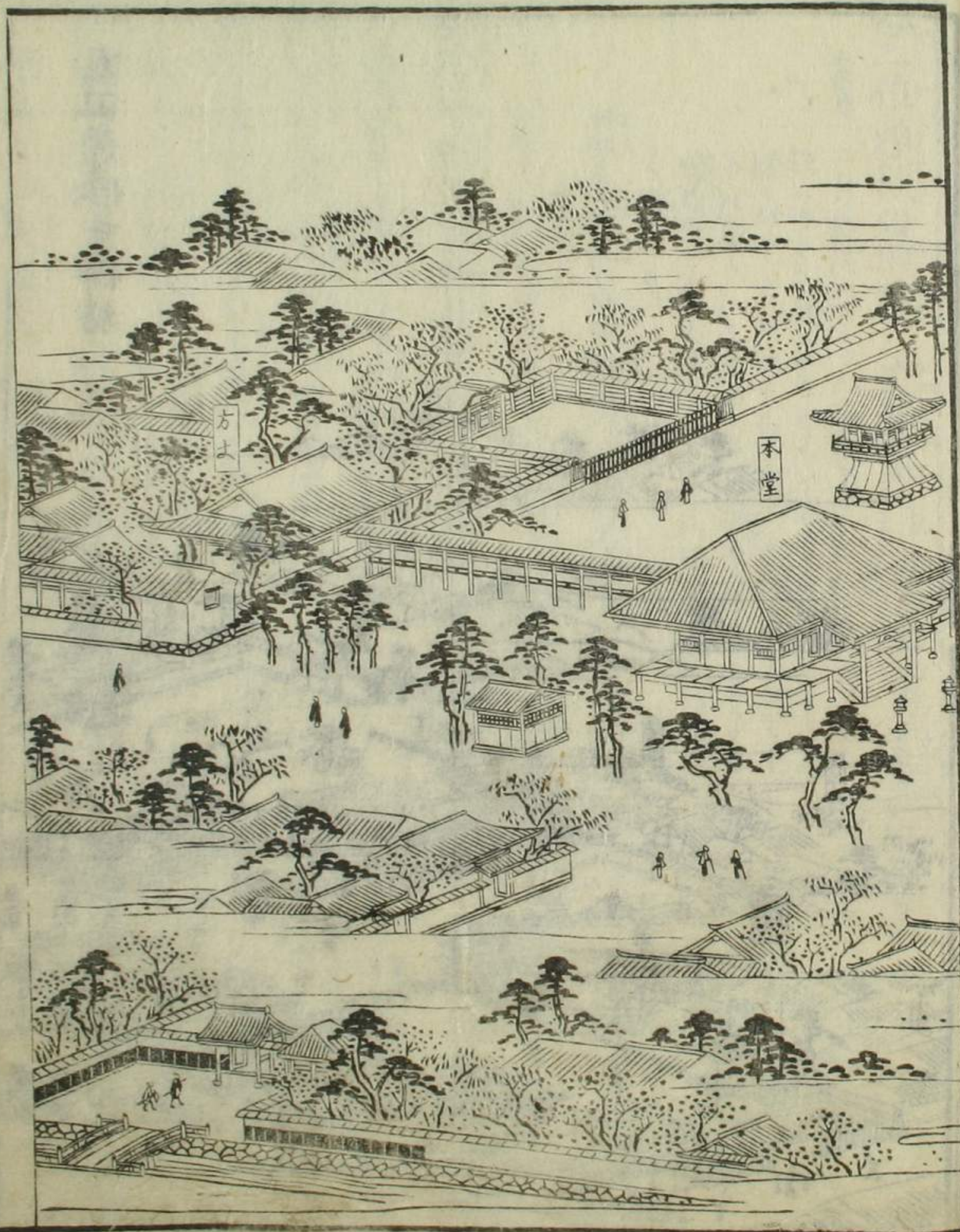
十二日寂辰年八十七當寺樓門の二天本寺持國天西の多門天ありて運慶

安阿弥の兩化之靈驗新ありて常は諸人絶を樓門の前二天の拜殿あり

細川治部少輔源勝益寺地後寄附して頂妙寺と号を初の地を新町運

鷹司今下長者小あり其後中御門今北樓本の高倉所れ旧地小あり

天正の末又け地は迂ん



本能寺



高田専修寺御坊



源三位頼政の旧蹟は大炊御門をり
今竹屋町 糸極れ西あり

家集 二月のほいそら花すくはれはふあうり
 はうりこほ極れませくものへにわさうり
 はうりこほ極れませくものへにわさうり
 さにむのひるあま極れ指のゆきうり
 嘯ぬやうにありとのそくは遠花をほ

君あそむる極れませくものへにわさうり
 頼政

高松神明の姉小路新町れ西あり此地は名羽院の帝長門守師行ふ仰てる也

の内裏と造らしめ
當社の内裏の旧蹟今社僧あね極れませくものへにわさうり

西行水の三條坊門室町の東あり
後中此名水あり西行上人は地に住居

曼陀羅山天性寺の糸極れ三條あり浄土宗ありて本尊阿彌陀佛の惠心乃

依あり織姫観音
中將姫の化身なり 中將姫の像
自依あり

久田の金剛寺の天性寺の南隣る浄土宗ありて本尊地藏の満堂上人の

化あり夕貞薬師
本堂のあり



三條橋と東國より平安城に至り喉口あり貴賤の行人常々多くして皇別
此繁花は橋上よりくわたり欄干より紫銅に擬寶珠十八本ありて悉
銘刻其銘曰 洛陽三條之橋至後代化度往還人磐石之礎入地
五尋切石之柱六十三本蓋於日域石柱盤觸乎天正十八年庚寅正月
日豊臣初之御代奉増田右衛門尉長盛造之

檀王法輪寺と三條橋東爪あり浄土宗ありて本尊阿彌陀佛は惠光此之

古ハ悟真寺と號して良忠上人此身子道光法師建立を應仁の乱後荒廢す

乃不慶長年中袋中上人再建ありて梅檀王院と号し 袋中上人退隱乃後

又條橋東爪隈居一袋中庵 主夜神祠と開基袋中上人の勅傳之縁記曰

慶長八年三月十八日袋中上人別行入て会々ゆふ忽終して朱夜小

青袍衣着して光明中に現れ上人告曰われ華嚴經小説のい一娑珊

婆演底主夜神之專修念佛此行者は擁護を乞ふと則ち答は授け奉り

應驗新めて常々行人多く 慶長以来當寺寶藏あり近年今堂小鎮坐し

鎮守ハ加茂左神宮原あり 當寺建立あり前之勅傳あり古鴨川にあり

龍王祠 一とせ早魁の年あり後轉て具靈とをあらとて 袖留地藏

由未詳 二株松 袋中上人慈母二所 不詳 瑞泉寺と三條小橋の南あり浄土宗ありて本尊阿彌陀佛を聖徳太子

此能より開基ハ三空柱叔和尚本願ハ白秀次公の母堂瑞龍院あり

秀次公退悼此為よ建立一人 則秀次公歿 文禄年中に秀次公

左衛門秀吉公小對して逆ん此企あり 故に紀別高野と入つて自殺を

首と取て三條河原に梟又二十余人は妾婦并子推子其は所より

て斬罪して同穴に埋む其後塚を筑て上小截石あり銘曰秀次悪逆

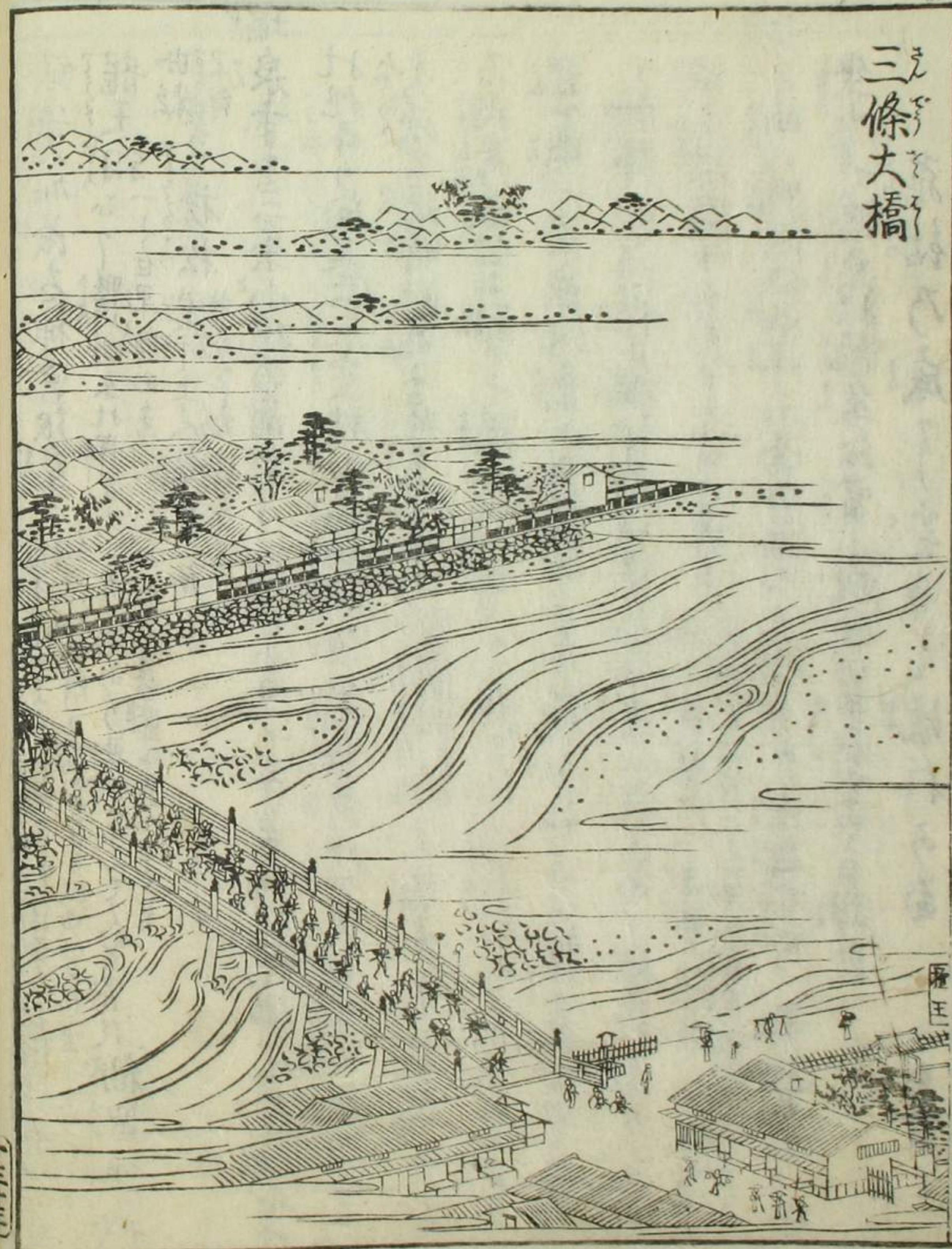
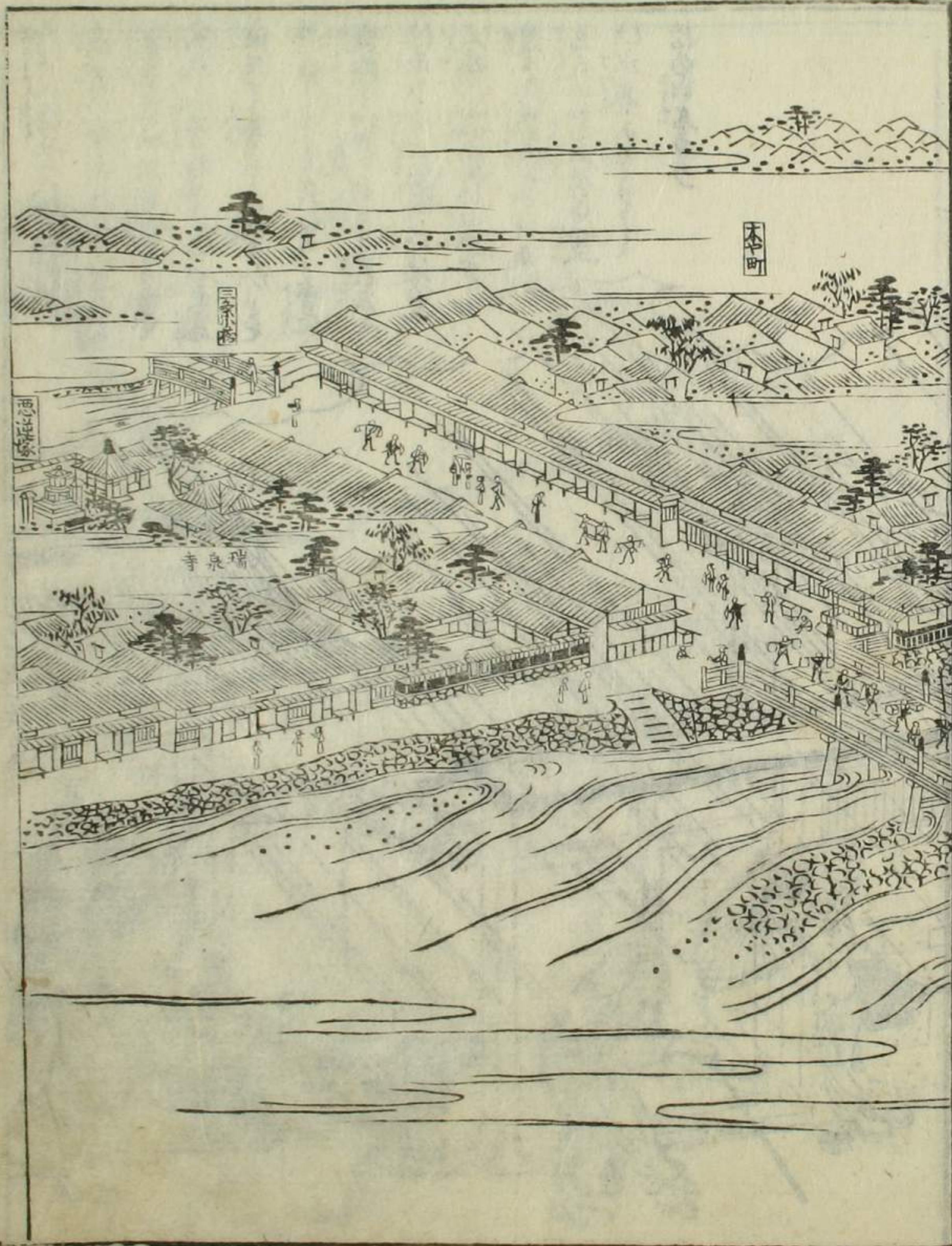
塚文禄四年七月十五日と書と 傍に石塔婆あり妾婦二十余人の墳あり

先本町の鴨川の西岸三條の南あり川色ぬみ水樓の如く軒端なつて

坐して洛東に風系に賞一酣歌の英空まぐと群は

苑結乃底り雲ゆく流れの面

鬼貫

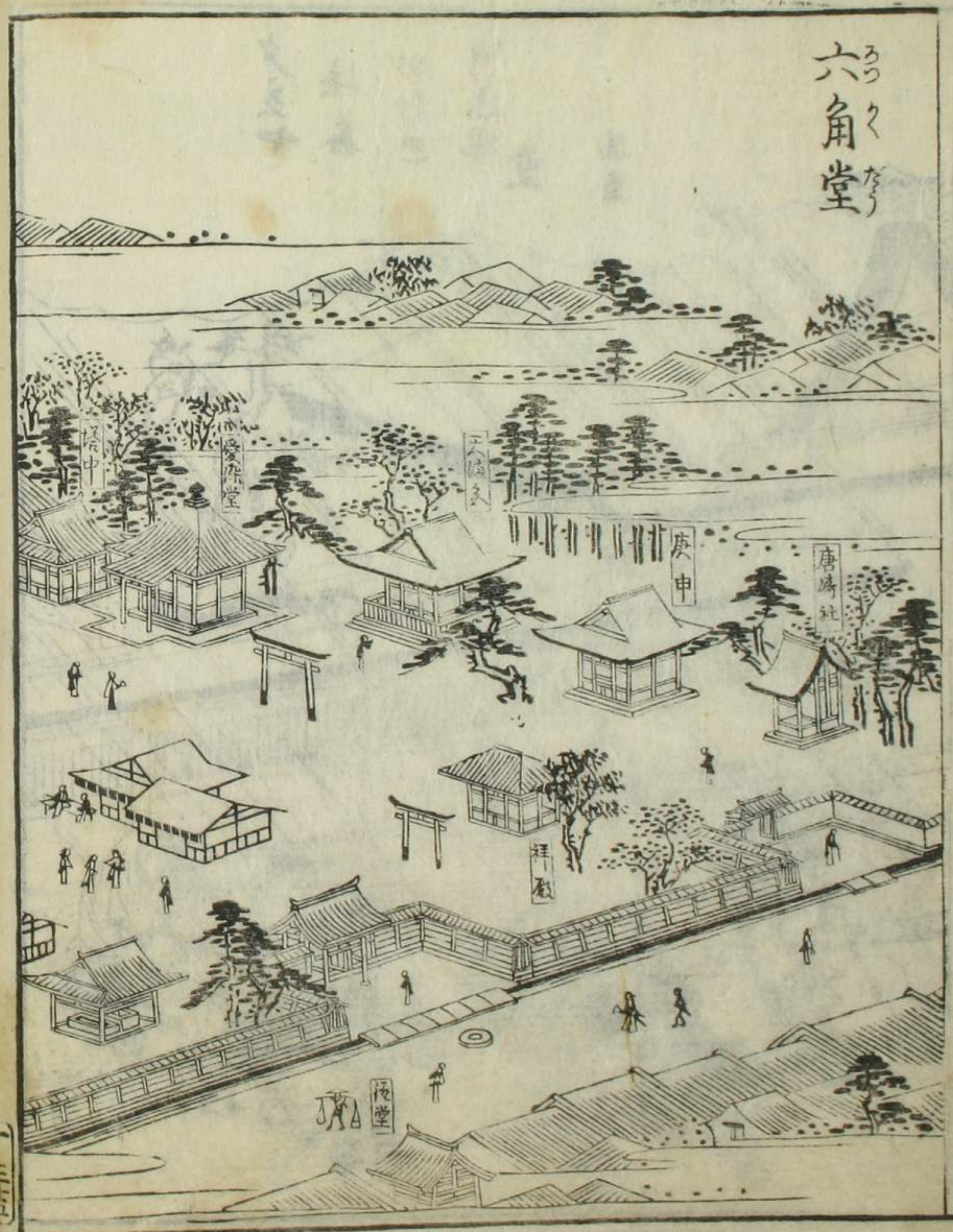
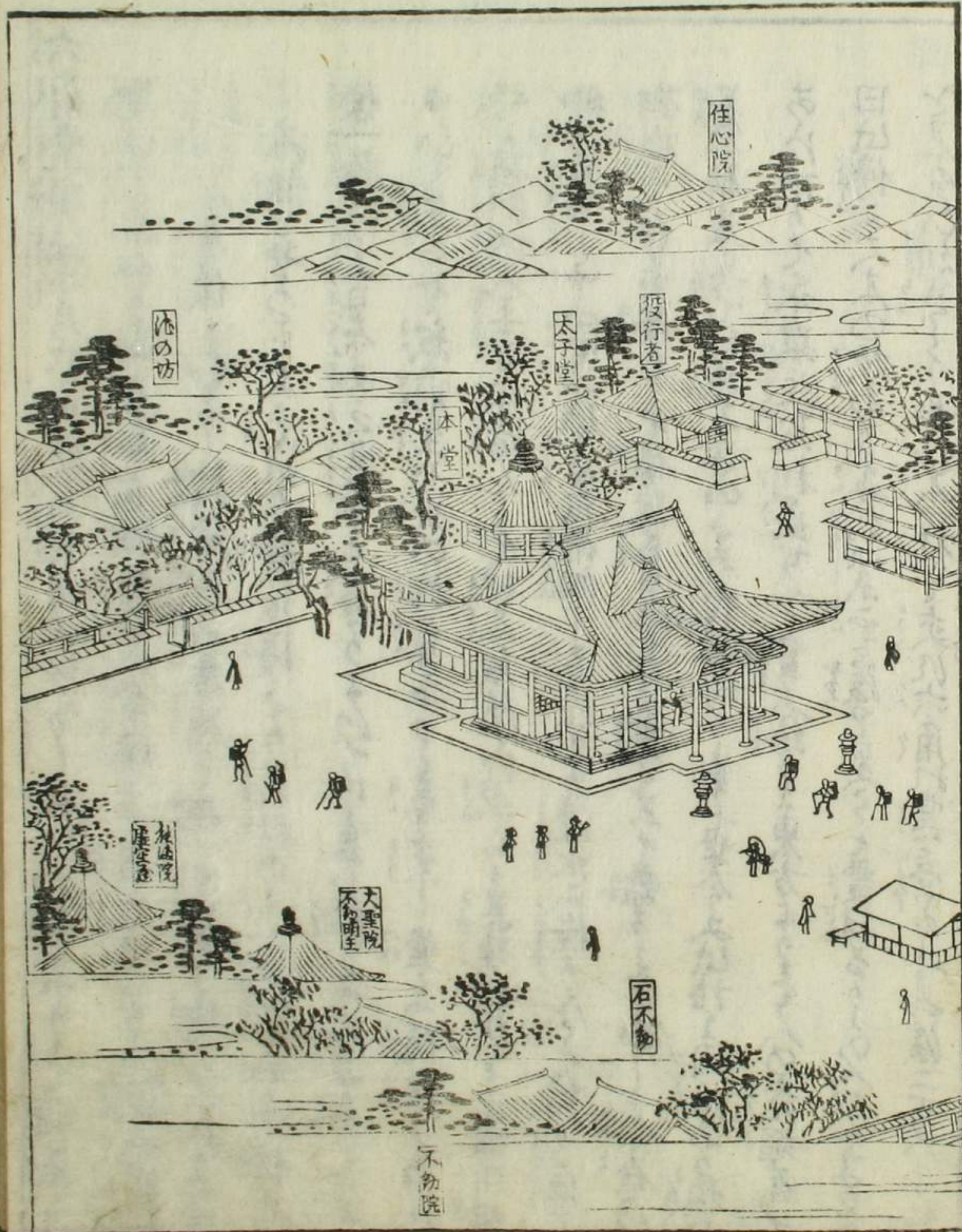


所所八幡社へ八幡町一名
 高余の西ふあり足利草公
 康永年中に勃法寺り號と
 風風山等持寺のいふ窓
 困師も暫くは信ありしを
 佛地と号せりといひの普光
 園殿下は亭ありて其屋不
 汰あり今兩替町清汰の小
 人家の裏にはの旧地あり
 遺より掛橋は清汰通
 馬丸の西の石橋は直
 け水亭小のい
 橋の旧名あり



夕立や
 法義
 のけさ
 阿弥陀
 堂
 其角





六角堂頂法寺の六角通馬丸通のしんぐみろ天台宗よりて開基を

聖徳太子あり奉尊如意輪観音の金像あり長一丈八歩之

三番 不此尊像をむろ 隆徳必岩屋浦に夜に光あり漢人おれとあ

しつ細とゆるとみ朱れ唐櫃板得たり其櫃の上正光如意輪乃

像一尊漢上日本風之王家とせりよめて因重小献りみたり早く

あして果あを祇前生七世の持尊より尊崇一常小隨身しあ

時は撰別四天王寺依造んとて材本依所に求らる具願し所と

御土車卑くつた子は過依徘徊しあはなり清水小深のくたれ

後小年尊告て白我た子のあふ持せり事七世今又は地因縁あり頼

あにありて永衆生取利益せんと言ふ後より東方なり多人の老嫗有て

曰は傍み大本の板あり毎朝紫の衣を穿て是こそ靈材なり

と云ふし知きくめ化本一株も交は六角の堂と嘗め其後二百

餘

歳を経て桓武天皇都板々に定まらる府官使條路を極むるより用堂小

洛の中み當まるる皆星依懸しりもたを建立精舎依他所に移さん

とゆはしるは俄に黒雲下りては堂自五丈才心の方小退り故事ゆ

小洛坂通して都とふりふり 一説は高麗國光明寺より尊像より松坂の

池坊に立た 當坊住職の中專慶法師之を依愛し本を真あるを食

感あり立たの秘密を靈夢授けり其然なつ中真又おほいより其

錦天社系極錦小洛本坊當ありなる所天満天神之鳥居に額に

書きて青蓮院尊英法親王れ等之拜殿の額に寶鏡寺宮理秀尼公の

宗上の時ふりて紫苔山歡喜光寺河原院六條道場と號し開基

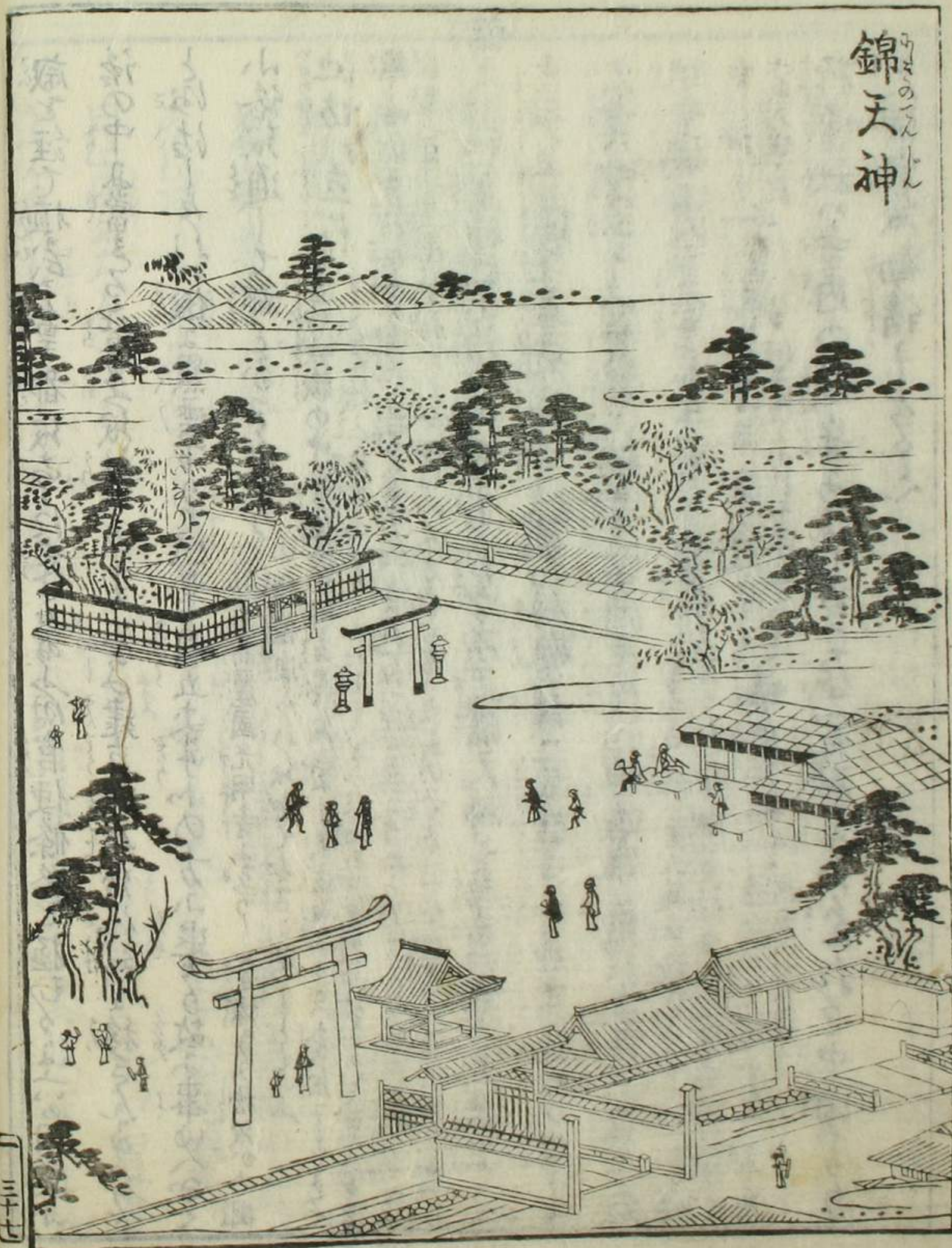
甥聖戒上人より亨二年二月十日寂に 當寺の旧地は東六條

寺にあり 千鳥池 當寺庫裏の後あり 壺電社 千鳥池の中

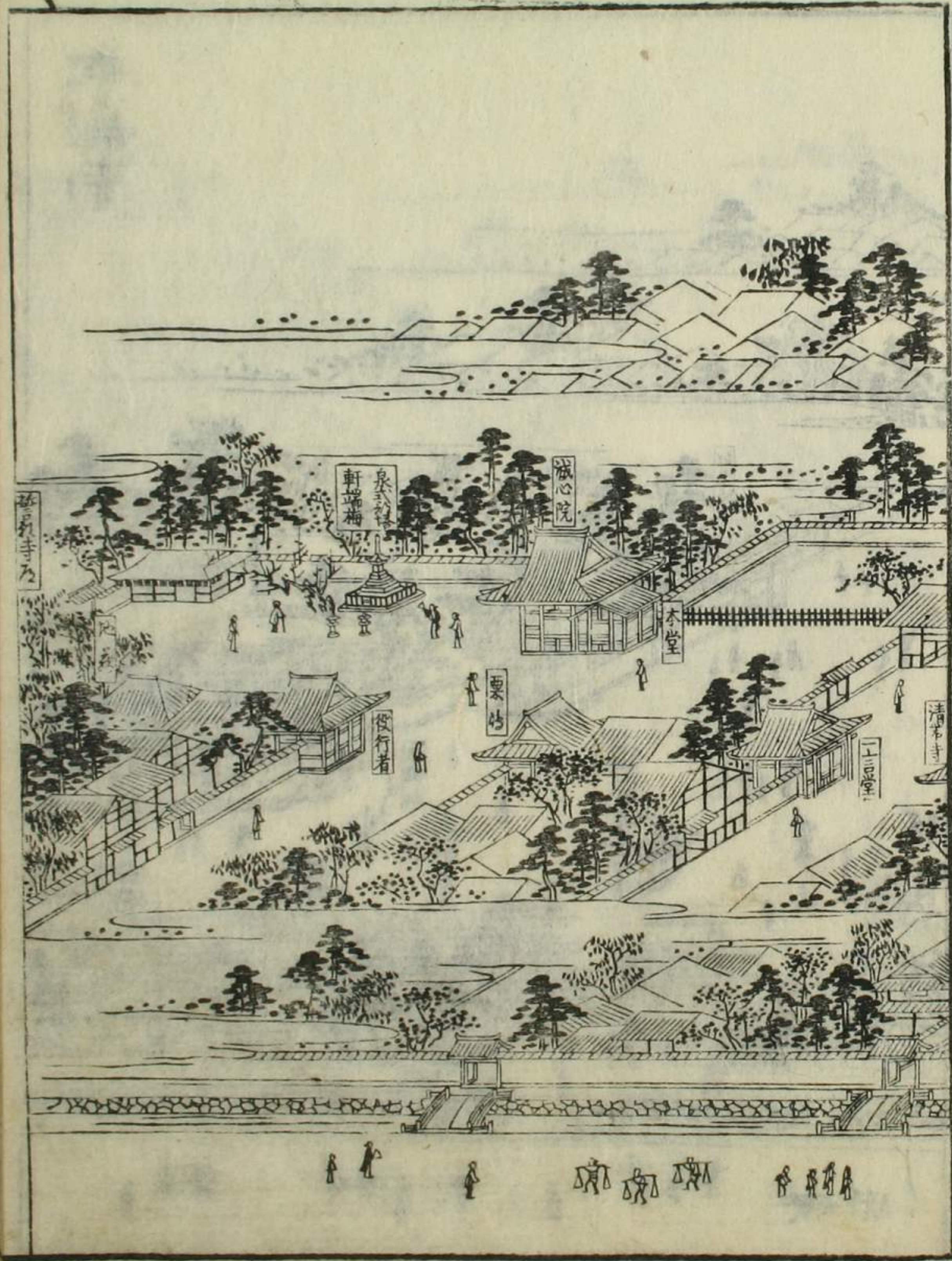
折當社の寺内の鎮守ありて古いた大長融公依ありし中頃より

天満宮坂勸請しり

西國十八番巡



錦天神
にしきのてんじん





誓願寺

大本山圓福寺の京極通四條坊門今ハ彌茶師此東にあり津土宗涼州流
 義の一本寺とあり今ハ室町三條坊門本尊阿彌陀佛ハ法然上人の作なり
 彌茶師ハ永福寺と号して系福寺の境内あり旧地ハ三條室町本尊彌茶師
 佛ハ石像にして長二尺傳教大師作也舊比叡山の山谷あり又彌茶師と號するハ
 師と稱せし後世誤って彌茶師といひ凡俗せりつりハの堂の梁の銘ハ三條室町
 西光寺ハ彌茶師の山隣ハ虎茶師ハ弘法の作也水之上茶師堂と記し有り○鯉池藏の堂の前あり由來繁盛なり
 長金寺ハ誠心院の西向ハ一言堂と云々本尊十一面觀音ハ弘法の作也舊地ハ
 清帶寺ハ西光寺の西向ハあり本尊胎藏地蔵土佛にして行基作
 化あり懷妊の婦人安産版
 誠心院ハ西光寺の隣ハ俗ハ和泉式部といふ古ハ小川一条の山あり海堂圓白道長公の
 本尊ハ阿彌陀佛脇壇ハ圓白道長公作也安産版ハ和泉式部塔軒端梅の
 形端の梅ハ信譽師茶藤軒言水の墓あり
 風は果を有り海乃音
 言水



和泉式部
 我守雅致
 女して和泉
 女とて世
 鳴又美顔
 曼前附の人
 されと慕入
 四十兼のハ
 より尼ふあり
 誠心院乃
 小浄堂アリ
 専末末の資糧と
 一遍上人誓願する所れ
 と弘名のふくた具靈魂
 現れ上人の問答せし語
 曲の藝さも宜るらん

誓願寺の系極二条あり降土家うて源州流後の一本寺なり存後を

天智天皇同基の惠隱僧都といふ和列平極あり桓武天皇遷都の海上

源信僧都も暫く住し十餘世の後藏俊本寺阿弥陀佛の長八尺に坐像

僧正法然上人の法流を傳へ降土家とすうて佛工賢向子安子國西人の化有り又春日大明神を教向ありて柱

助の故春日の神化といふ佛面よ未字のなすありあれ天智帝の遺徳あり

額の大覺寺空性法親王の筆當寺再興大施主大相國也清方 六字經一遍

上人の筆と堂内の壇上より天智帝の宸翰を禁隱和尚の教と安住二重

塔と之を和八年に草創うて本尊の谷楽師あり國山堂より法然

上人の像あり釋迦堂より寶冠釋迦佛と安住に鎮守の春日明神五輪

石塔の秀吉公の愛妾松丸殿に墓法石の清方隱月是盛久禪定尼と銘に

辨慶石の方士の庭假山の上あり當寺再興の施主中檀那塔と銘に

牛洗鉢に本あり羽二重井の方士の墓あり法石の清方隱月是盛久禪定尼と銘に

弘法大師より傳來とて又法然上人の二牧記信紙羨嘆とて休和尚の筆あり

表具の中縁の系極の杜丹其文小曰 一牧記信紙羨嘆とて休和尚の筆あり

傳聞法然活如来

尼入道同愚癡輩

南元阿弥陀佛

以外連廣虚堂つゝぬもの唯法然の一丈奉と

存なり我來今日より降土家と徹す穴賢く

應仁二年二月五日 新酬恩院主 一休判

佛所所さぬ

當寺の境内より紅梅数株あり如月の夜に都下れ人々くみ奉り

未開紅の艶色欣賞して羨観とて

立ふぬ木をうらむる梅花

塔中竹林院より小堀遠列の叔母屋あり舎羅

鏡倫之曰長仙院の庭佳境とて世々名する

柳水の西院三條に南あり
 いしに所は風凰の青柳と
 いふ法道場ありいふ名を
 又いふより鬼殿といふの拾
 抄に白右佐の宅悪所ありと
 又朝成の悪霊ありと云ふ明徳
 の女火の回録あり



空也堂録くたの系全と
 天分此御宇痲癩ふくむ
 子て此をもの救ふに
 空也上人の心憐れむ
 此像を仰り系全を系湯
 振ねてはるに供し具系湯飯

空也堂
 法入小あまより
 痲癩ちまらし平愈
 帝のれ飯感
 毎年三三を
 空也堂の系全
 あり飯服といひ
 年中邪氣をねぐ
 とくは帝の初を
 より今に王服





不來乎藥師



光坂野守敏諸龍瓶咒一紙中入弘法大師天竺無熱池の善女龍
 神と清一天下早魁れ愁ひを杖て敷感と夢小野小町も和あを依して雨を降
 一鷺の官旨とくけて羽を伏蹲れ官人あはれ安くと捕む帝御感あり又
 位は爵賜りしをい所又白河院清遊の附務つらせ敷感あり又務は
 池中入て金覆輪のた刀を喰り上りたり早より銘張務丸らふ宗徳院小僧
 六条判官為義此清劔と湯さる祇園會もあはれ始り弘仁二年より後
 帝の苑中小於ては官あり是れ宴の始る本朝文粹源順の曰神泉苑を禁
 苑の真より紅林地度うし楚夏故旬月中小吞緑池水高うし兵江坂眼
 下は縮むとあり星霜漸累り遂に建保は頃より荒廢小なる承久の乱後
 武別の禅門築地高うし門を堅て修造ある且後又あれて回復あり
 之れ此の筑地系れ僧覺雅とて官不申と再興し真言の靈場とる北野
 右近馬場は神泉苑等へ終るりとんども是れ大内裏の遺物なり
 宗時

不來乎藥師を金の座二条上西側あり本尊を比叡山傳教大師
 一刀三禮七尊彫刻し日本七佛の一尊なり住昔美濃國横倉
 に一院の設け安坐し其頃尾張五山田郡に何某右馬允明長
 とて武士あり明暮尊敬し其に水久三年夏又月京鎌倉乃我
 且所高名有し七瀬川の我源子負取又其乃なる時此茶師
 一人の僧と化して草をのみあふり明長是を後とれ立所に
 疵平金一奉園に歸す一と又實喜二年夏六月よりを氣
 くけしく極寒のさくるれい疫病流行し死するもの並に多し
 然るに此茶師院の差又告て宣く一切の病生我前より來は法病悉
 除るにこれりくとありしに感涙袖み余りて世に是を福か
 むに貴姓群集し系請の軍疫病愈平金を後に織田信長は阜
 在住のくは初藤之城守し茶師を今の所に移すとて其が都鄙
 の貴賤教多信仰し靈驗あり奉委記しとて



4145

